

学生主体の新しい学士課程の創成事業 第7回FD講演会

The Importance of World History, What It Is, and Why It Should Be Taught?

～ワールド・ヒストリーの意義：それは何か、なぜ教えるべきなのか？～

ワシントン大学 国際学部教授
アナン・ヤン氏



女子大学で講義をすることを長い間楽しみにしていました。残念ながら私は日本語ができませんがどうかご辛抱ください。あまりなじみのないお話かもしれませんが、本日はワールド・ヒストリーについてお話ししましょう。コーネル大学のベッカーが有名ですが、ワールド・ヒストリーは「歴史の歴史」ともいえます。

19世紀からの歴史研究は国家に中心をおいてなされてきました。とても面白い例があります。初めて宇宙飛行士が宇宙から地球を見たときのコメントは「私の国が見えた」というものでした。つまり宇宙飛行士にとっては、宇宙から地球を見るというより、宇宙から自分の出身国をみていたのです。

ワールド・ヒストリーは宇宙から地球の歴史を見るという新しい視点です。1つの国家の歴史ではなくワールド・ヒストリアンは統合的に歴史をみるのです。ワールド・ヒストリーは、グローバル・ヒストリーとはどうちがうのでしょうか。グローバル・ヒストリーには時間の制限があり、比較的最近の、19世紀から20世紀にかけてのことに焦点をあてています。しかし、ワールド・ヒストリーは時代的な制限はなく、またローカルな歴史にも関心をもっているのです。

I. 「ワールド・ヒストリー」の定義

Goucher と Walton によれば、ワールド・ヒストリーは過去についてグローバルな視点を求め、世界中の人々のすべての歴史的体験を結びつけることを目指します。人類共通の過去を詳細に見ることによってはじめて、現在の世界を意味のある歴史的な文脈の中で見るのが可能になるのです。

すべての歴史家と同様にワールド・ヒストリアンは過去の個人や集団の経験の記録から過去の物語を創造します。そして彼らは今、自分たちの生きている世界に対する問いに答えるために過去の出来事を解釈するのです。

21世紀はまさにこのような視点が必要な世紀です。

ワールド・ヒストリーとは何か？ 定義

- ・ワールド・ヒストリーとは過去をグローバルな視点でみることで、そして世界のすべての人々の歴史的な経験を一体化すること。人類共通の過去を見ることによってはじめて今日の世界を意味ある歴史的な文脈で見ることが可能になる。すべての歴史家と同様にワールド・ヒストリアンは個人や集団の体験の記録から過去を語る。そして彼らは過去について自分たちが住んでいる、今の世界から出てくる疑問に答える形で過去を解釈する。(Goucher & Walton)

スライド 1

グローバル・ヒストリー

- ・グローバルはワールドと異なっている
- ・ワールドは人間の存在に普及するもので、例えば地球と地球の上のすべての者と人をさす
- ・グローバルが「globe」というラテン語から来た言葉で「半球的な何か」という意味である。それは地球の外からの視点を強調している。宇宙からという視点で「宇宙船地球号」という概念を思い起こす
- ・我々が生きている真にグローバルな出来事を記述するのにより適している。
- ・新しいグローバル・ヒストリーとはグローバル化の歴史であり、グローバル化の要素とその始まりについて扱うもので、地方的、国家的、地域的というよりグローバルなプロセスに注目する。(Bruce Mazlish)

スライド 2

II. ビッグ・ピクチャー(マクロ・ヒストリー)について

ワールド・ヒストリアンは共通の現象を見つけ出し、地域を超えた交流を分析し、比較を進展させ、ある地域の出来事をグローバルな変化と関連付けます。そして複数の観点から歴史的仮説を検証するのです。

ワールド・ヒストリーは、代表的歴史家としてマクニール William McNeil らがいて、World History Association を創立しました。グローバル・ヒストリーは Bruce Mazlish らが主張しています。単一の視点と複数の視点を対立させ、複数の視点があるほうが、グローバル化の系譜を求める時にはより興味深いと述べています。

ビッグ・ヒストリーとは David Christian が使った言葉です。人間社会以前の歴史も含んでいます。ビッグバンからの歴史、つまり地球の長い進化の 10 万年前にさかのぼります。この考え方から出た議論としては「コロンブスによる交流」があります。1500 年ごろに西洋とその他の世界が行き来するようになったために、植物や伝染病、動物が海を越えたという、人類だけではなく生態系にも大きな変化でした。人類の歴史はビッグバンからみれば短い期間なのです。人類は進化の過程で登場し、そのあと文明が生まれたのです。

global と world は異なっています。world とは地上の人間の経験をさしています。global とはラテンの語源からきていて、宇宙からみた地球という視点を強調しています。私はまだ、あえてワールド・ヒストリーという言葉を使っています。グローバル・ヒストリーはプロセスに注目するのです。対象とする時代はここ 100 年くらいの時代に関心をもっているのです。

ビッグ・ヒストリー
デビッド・クリスチャン

「ビッグ・ヒストリーの効用」とは何か。
1. ビッグ・ヒストリーとは何か？ ビッグ・バンから現在までの歴史のこと。
2. ワールド・ヒストリーの効用は何か？ 歳をすすめるように自分の慣れ親しんだ物語を新しい視点で見ること学ぶ。
3. ビッグ・ヒストリーはより大きなスケールで同じ効用がある。つまりビッグ・ヒストリーはワールド・ヒストリーに別れて次の効用があり、ワールド・ヒストリーはより小さいスケールで歴史にたいして次の効用がある。
●新しい視点 人類の歴史がどのくらい複雑なのか
●新しい視点 何が人類の歴史をユニークなものにしているのか
●新しい視点 私たちがいかに重要なのか
4. ワールド・ヒストリーの意味合い
●ヒストリーはより大きなスケールで歴史を語ることに役立つ。
●ヒストリーの歴史をより深く知る。

スライド 3

デビッド・クリスチャンのビッグ・ヒストリーに対する論理的根拠

ワールド・ヒストリーの意味は？
ビッグ・ヒストリーが目指すテーマと性格とは何か？

3つの関連性のあるテーマ

1. 社会的な複雑さ 人が人類をユニークなものにし、また歴史を伝えることに困難にする
2. エネルギーの増加 複雑さを増している世界からエネルギーが流れてくる。
3. 複雑性の増加 人が知能を高め、新しいエネルギーの消費行動を見つけてくることが可能になる

5つの主要なターニング・ポイント

1. 人類の起源 言語の表明によって西遊の複雑な事象が形成された
2. 認知能力の増加 言語で知識を伝えることが可能になり、エネルギーの消費を増加させた
3. 農業 食物から得られるエネルギーが豊かになり、人類の数を増やした
4. 都市と国家 社会的複雑さが増えエネルギーを消費することが増加した
5. コロンブス 世界的なエネルギー消費の増加がグローバルになった
6. 現在 人類の複雑さを増やした、エネルギー消費の増加がグローバルになった、複雑さとエネルギー消費に増加した。

スライド 4

III. アメリカ合衆国におけるワールド・ヒストリーの推移

ではつぎにアメリカ合衆国では、ワールド・ヒストリーはどのように捉えられていたのか、お話ししましょう。第一次大戦前はアングロアメリカの文明研究が歴史研究の中心でありました。第一次大戦以前は民族中心の視点で研究されていました。

たとえばキリスト教文明がその他の国とどうかかわったかということに重点が置かれていました。そしてヨーロッパの歴史研究に縛られていました。しかし第一次大戦後、シュペングラー Oswald Spengler やトインビーなどが現れました。世界戦争から西洋文明への失望感が生まれました。また、当時はまだ西洋文明研究が中心でしたが、伝道師の子どもとして世界各地に行った人々がアメリカ合衆国にもどってきて、西洋中心の歴史研究に疑問を持ち始めました。なぜある文明は栄え、あるものは滅びるのか？西洋文明はこれからどうなるのか？文明にも寿命があるのではないかと？というように文明の持続性についての疑問をもつようになりました。そして西洋文明が唯一の文明であるという考えかたに疑問をもつようになったのです。

そのような状況の中でアメリカ合衆国では中等教育や単科大学で歴史教育が重視されるようになりました。また移民に対する歴史教育が重要な問題になり、アメリカ合衆国はヨーロッパの歴史の流れをうけついでいるのだということを移民に教育する必要性を感じていました。

つまり世界文明はエジプトからギリシャそしてヨーロッパ、そしてイギリスからアメリカ合衆国へとつながっていることを移民に教える必要があると考えられました。アメリカ合衆国はヨーロッパと強い知的関係があるのだと教えられました。

アメリカ合衆国におけるワールド・ヒストリーの歴史

- 第一次世界大戦前 アメリカ合衆国では白人と黒人との差別を正当化する目的があった。
- (C. Vann Woodward) に関する主要な歴史的研究は白人が白人であることと黒人が白人であることとの間にあった。
- (Roy H. Pinney) の発見は、白人は白人であることと黒人は黒人であることとを区別する。
- 第一次世界大戦から第二次世界大戦まで 大衆の歴史の時代において文化批評の時代がきた。
- (David Stebbins) The Decline of the West (著者不明)
- (Arnold Toynbee) Study of History (1934) (著者不明)
- 第二次世界大戦 アメリカの歴史
- 戦後研究と文化史 歴史の発展
- 戦後研究と文化史 歴史の発展
- 戦後研究と文化史 歴史の発展
- 1980年代 World History Association が設立された。
- ワールド・ヒストリーに関する記事、メタ・ヒストリーの発展が見られた。

資料

- (William H. McNeill) Rise of the West (1962)
- (L. S. Dowds) A New World History (1989)
- (William H. McNeill) World History (1974)
- (Arnold Toynbee) The Venture of Man (1934)
- (Fernand Braudel) Civilization and Civilization (1969, 70) (著者不明)

スライド 5

第二次大戦後、アメリカ合衆国は超大国になり、世界の他の地域に対する関心が広がりました。特に1950年代の旧ソビエトの人工衛星スプートニクの打ち上げによって、アメリカ合衆国は旧ソビエトに追いつかなくてはならないと考え、教育の点でも追いつかなければという気運が高まりました。また冷戦のために、軍事戦略上、世界中の情報がアメリカ合衆国に必要になりました。そしてそのためには外国語の習得が重要になりました。

日本研究と中国研究に関してはライシャワーやフェアバンクなどがこの時代に登場しました。ハーバード大学で area study (地域研究) に予算が費やされました。ワシントン大学ではいくつかの地域研究センターがあって様々な視点から地域研究が行われています。しかしイラクにおける専門家は少なく、アフガニスタンについても専門家が少ないのです。オバマ大統領は「今は新しいスプートニク時代だ」と発言しています。

1960年代にアメリカ合衆国で公民権運動が起こって、多文化教育の必要が生じました。19世紀に戻って歴史を見直しましたが、1970年代には残念ながらまだ民族中心の歴史研究でした。まだアメリカ合衆国の歴史教育はヨーロッパの歴史が中心でした。80年代もまだだそうでした。新しい物語 narrative が必要でした。マクニールの論文は西洋のすばらしさを主張し、1500年以前の歴史を小さくみていたのですが、この時期に自分自身の書いたテキストを書き直しはじめました。ホジソン Marshal Hodgson らは、decenter (歴史の研究対象を周辺に移すこと) に貢献しました。ブローデルや、マルクスに影響を受けたウォーラステイン I. Wallerstein も貢献しました。そしてようやく1980年代に World History Association が創立されました。

なぜワールド・ヒストリーなのか？

- 歴史の視点を同じところに集中しないようにする。
- 1つの視点からの歴史から離れる
- 人間が共有する世界をより高く評価する
- 人間の共通性だけでなく相違点を認識する。
- 関連性に注目し、比較に焦点をあてる
- 長所と短所

スライド 6

私自身はインドの歴史を研究していますが、移民の問題に関心がありますし、東南アジアの歴史家でもあります。歴史家は複数の hat (研究対象) をもっていてもよいと思います。

ワールド・ヒストリーは、これまでのアメリカ合衆国とヨーロッパ中心の歴史観を変えるのです。これまでは主たる歴史の物語はヨーロッパやアメリカでした。しかし、ワールド・ヒストリーは、ひとつの国家にだけ注目するのではないのです。どんな小さな地域もほかの地域と関係があります。ワールド・ヒストリーは connection (関連) に注目するのです。ワールド・ヒストリーは、

「共通点」と「相違点」に注目します。例えば地域によって、「産業化」「病気」などに対して異なった反応をします。connection (関連性) と comparative (比較) の2つのCが重要です。

この考え方にはもちろん長所も短所もありますが、あまりに国家の単位にとらわれると、大きな流れが見えなくなるのです。独立ということに固執すれば、例えばインドの独立の歴史を説明するのに紀元前26年までさかのぼらなければならなくなります。

別の例をあげれば日本史と中国史や韓国史を結びつけることが可能になります。

ワールド・ヒストリーに賛成する人々の意見は、戦略的な議論があり、また普遍主義があげられます。人類にとって何を意味するかという視点をもっているからです。

またワールド・ヒストリーに反対する意見としては、現実的には多文化主義の視点はアメリカ合衆国を破壊してしまうのではないかという議論です。そして西洋に関する知識を減少させてしまうという反対しています。そして直線的で中央集権的な世界観が作られることを危惧しています。

IV. ワールド・ヒストリーに関する理論

ワールド・ヒストリーに関する理論には、以下のようなものがあげられます。ひとつは「世界システム理論」、つまり「中核」と「周辺」という議論です。そこでは世界は労働の分業がなされていて、多文化と様々な政治システムでできた1つのユニットであるという考え方です。ウォーラーsteinらがこの様な発展についてはそのタイミングについて議論しています。また「世界システム理論」を修正する議論がアブー・ルドド Janet Abu-Lughod やフランク Andre Gunter Frank から起こりました。また「近代化理論」もありますが、西洋中心であると批判されています。アナル派の「全体史 Total history」という学派もあります。

ワールド・ヒストリーのテーマは以下のものがあげられます。

- 1) 社会間の相互関係
(例えば貿易、国際的な交流のシステム、戦争、外交など)
- 2) 変化と継続の関連
- 3) 技術と人口動態と環境の影響
(例えば人口増加、人口減少、疾病、産業、移民、農業、兵器)

理論的な枠組みと主題となる枠組み

- ・ ワールド・システム理論
- ・ 近代化理論
- ・ アナル派のトータル・ヒストリー
- ・ 関連と比較
- ・ 相互作用だけではなく相違点

スライド 7

V. ワールド・ヒストリーの分析の単位

的確な分析対象を見つけることが重要です。半球単位で地域間の歴史を捉える視点があります。例をあげると、アフリカ大陸とユーラシア大陸(Hodgson)のつながりを見る視点や、社会や文化をこれまでより変化する単位とみる視点 (Eric Wolf)、特定のトピックに注目して比較するアプローチ(例えば、移民、貿易、疾病)などです。

文明に対する新しい概念、つまりマクニールのように、四大文明(ヨーロッパと地中海、中東、インドと中国)のみが「communication net」をもっていて、多くの人々や物を巻き込んでやりとりすることになった、という考え方があります。

分析の枠組

- ローカルとナショナルの境界を越える
 - 地域的・半球的・文明・社会・文化
 - アメリカ合衆国のHigh School Ap-Coursのワールド・ヒストリーで教えられるテーマは以下のものである。
1. 異なる社会の間における相互作用が及ぼす影響(貿易、国際交流、戦争、外交)
 2. このコースでカバーする時代のワールド・ヒストリーを通じての変化と継続の関連性
 3. 人々と環境に及ぼす技術と人口動態の影響(人口増加と減少、疾病、工業、移民、産業、武器)
 4. 社会構造とジェンダー構造のシステム(社会内部と社会間の主な特徴を比較して変化を評価する)
 5. 文化的、知的な発展と社会内部と社会間の相互作用
 6. 国家の機能と構造の変化と国家に対する態度、政治的なイデオロギイの変化(政治文化)、国民国家の登場を含む(政治組織の構造)

スライド 8

VI. 時代の区切り方

時代をどこで区切るのかは重要な問題です。Peter Stearns がいうようにワールド・ヒストリーの視点があれば、国を超えた枠組みで、変化と継続性をはっきりとしめず鍵となる時代区分が可能です。「農業」「産業化」などに注目する時代区分があります。

イスラームに注目すれば1000年が重要になるし、また1500年あたりは西洋とその他の地域の交流が本格的にはじまったという意味で重要です。

時代区分の様々な捕らえ方を比較して、日本の歴史と当てはめてみてはいかがでしょうか。あてはまるか、あてはまらないか考えてみることをおすすめします。日本がどのように他の国と関連をもっていたかをみることは視野を広げることができます。相互作用に注目すべきです。移民の研究で言えば、送り出す国と受け入れる国の両方のこと知る必要があるのです。

移民の問題は movement として捉えなければならないのです。

時代区分の種類

- ・ 紀元前4000-3000年 農業の発見と文明の登場
- ・ 紀元前3000-1000年 文明の拡大
- ・ 紀元前2000年-紀元前1000年 文明間の接触の最初の重要な時代
- ・ 500年-1500年 東山北山の登場とイスラーム
- ・ 1500年-現在 足利つた世界の経済、産業化、西洋の自国(Eurocentrism)
- ・ 紀元前3500-2000年 初期の複雑な社会
- ・ 紀元前2000-1000年 文明間の接触
- ・ 紀元前1000年-500年 Classical文明の時代
- ・ 500年-1000年 Postclassical文明の時代
- ・ 1000年-1500年 地理的拡大、Islamic empireの時代
- ・ 1500年-現在 近代 (Renaissance)
- ・ 人類社会の編成
- ・ 紀元前4000年-1000年 初期の農業と文明の出現
- ・ 紀元前1000年-紀元前500年 古典的文明、最初の帝国
- ・ 500年-1000年 古典的文明の崩壊
- ・ 1000年-1500年 中世の地域的発展
- ・ 1500年-1770年 近代の始まり
- ・ 1770年-1914年 近代の始まり
- ・ 1914年-現在 近代の始まり

スライド 9

時代区分の比較(日本とアメリカ合衆国)

- ・ 紀元前4000年-紀元前3000年 農業の発見、狩猟採集の社会
- ・ 紀元前3000年-紀元前1000年 文明の拡大
- ・ 紀元前2000年-紀元前1000年 文明間の接触の最初の重要な時代
- ・ 500年-1500年 東山北山の登場とイスラーム
- ・ 1500年-現在 足利つた世界の経済、産業化、西洋の自国(Eurocentrism)
- ・ 紀元前3500-2000年 初期の複雑な社会
- ・ 紀元前2000-1000年 文明間の接触
- ・ 紀元前1000年-500年 Classical文明の時代
- ・ 500年-1000年 Postclassical文明の時代
- ・ 1000年-1500年 地理的拡大、Islamic empireの時代
- ・ 1500年-現在 近代 (Renaissance)
- ・ 人類社会の編成
- ・ 紀元前4000年-1000年 初期の農業と文明の出現
- ・ 紀元前1000年-紀元前500年 古典的文明、最初の帝国
- ・ 500年-1000年 古典的文明の崩壊
- ・ 1000年-1500年 中世の地域的発展
- ・ 1500年-1770年 近代の始まり
- ・ 1770年-1914年 近代の始まり
- ・ 1914年-現在 近代の始まり

スライド 10

また技術と科学の発展はそれぞれの地域でどのように変化したかに注目することです。1つの国の歴史のみに固執すると大きな流れを見失います。

ワールド・ヒストリーのテーマとしては、例えば火薬の発明とその広がりについて研究するものがあります。火薬の発明は中国といわれていますが、どのように他の地域に伝わったのかというような研究です。ワールド・ヒストリーは世界をとらえなおすのです。

【パワーポイント・スライド 14】に記載したように、多くの学者がワールド・ヒストリーの研究で輝かしい賞を得ています。

【パワーポイント・スライド 15】にあるように Asian Association of World Historians の本部は大阪大学にあります。今年日本で集まり、来年は韓国で行われる予定です。私はその正会員であります。

今の時代にこそワールド・ヒストリーは重要であり、学生に教えられなければならないのです。なぜならこれからの学生たちは今までになくグローバルな世界に生きることになるからです。

- 1450-1750年
- 1750-1914年
- 1914年-現在

スライド 11

- 1914年-現在
- 反戦の時代、大正時代(1912-20)、昭和時代(1926-89)

スライド 12

どのようにワールド・ヒストリーを研究するのか

- ワールド・ヒストリーは「小さな細切れの単位の相互作用を強調する(それは人間の歴史におけるコミュニティ、社会、大陸に及ぶ)。そしてそれらの相互作用を通して人類全体の経験に近づくこととするものである。」
- 大量の移民、帝国の拡大、長距離の貿易、生物学的な変化(穀物や動物)、政治相権や家族構造などを対象にする

スライド 13

ワールド・ヒストリーを扱って賞を受けた著作

- 2011: Jean Chesneaux of Geneva...
- 2009: David Mervin...
- 2007: John Darwin...
- 2006: James McMillin...
- 2005: David Christian...
- 2004: David Christian...
- 2003: Lawrence Brown...
- 2002: Mike Doran...
- 2001: David Christian...
- 2000: James McMillin...
- 1999: John Darwin...

スライド 14

日本におけるワールド・ヒストリー(ウェブサイトより)

- 組織 The Asian Association of World Historians(AAWH)が設立された。
- 賞典 ワールド・ヒストリー学会に対する関心と研究の必要性がアジア太平洋地域に顕著であり、その中でも日本の学者が特に高く、高い評価を得た。この賞の出発点(原動力)、グローバル化に伴う歴史学に関する学際的・学際的な研究の重要性、また、国際的にワールド・ヒストリーの重要性を認識する必要があることである。
- 会員 自ら自身をglobal、world、transregional、comparative、intercultural、etc.の歴史家であると見ている個人や団体。そして学会について大規模なネットワークで研究することによって、異なる文化や背景を持つ歴史家や研究者が互いに協力し、研究や教育の面で互いに助け合うことができる。
- ミッション・ステートメント 異なる学際分野の研究者と歴史家が共同研究を行い、世界のグローバルな歴史を共有し、歴史学や教育の面で互いに協力し、研究や教育の面で互いに助け合うことができる。
- 出版 出版の機会を増やすこと、また、学際的な研究や教育の面で互いに協力し、研究や教育の面で互いに助け合うことができる。
- 賞典 賞典は、世界で最も重要な賞の一つであり、その賞状は、受賞者の業績を称賛し、その業績が、世界の歴史学や教育の面で互いに協力し、研究や教育の面で互いに助け合うことができる。

スライド 15

【質疑応答】

質問者 1

質問 1 歴史教育には国家の統制というものがありますがアメリカ合衆国ではそのような統制はないのですか。

回答 1 そうですね。すべての国家は歴史教育を統制していますね。アメリカ合衆国は国家レベルではしていませんが、州レベルでは行われています。州政府は教科書を決めます。何を教えるかに関しては、統制はしていません。実際には 10 年生(日本の中学 3 年生)でワールド・ヒストリーは教えられています。わが国には移民が多く存在し、ワシントン大学では 40% の学生はアジア系で、ほかの生徒も親たちは別の地域から来ています。だからアメリカ史とヨーロッパ史だけでは学生たちは満足しません。日本で日本史を教えるのは必要ですが、また日本の歴史をグローバルな文脈でみることは今後大切なことであると政府に働きかける必要があるのではないのでしょうか。

質問 2 第二次大戦後にアメリカ合衆国は海外に関心を持ったというのが area study はどうとらえられていますか。

回答 2 私は国際学部 international studies に属しているが歴史学科にも属しています。どの大学でも地域研究の学部・学科は単独ではありません。地域研究 area study は別の学問分野の中に含まれています。わが国では地域研究に対する関心はアメリカの帝国主義の延長上にあるということもできます。

質問 3 ワールド・ヒストリーは様々な「関連性」に焦点をあてるというのが、国家の歴史に対する知識がなくてはわからないのではないか。

回答 3 ワールド・ヒストリーの学科・専攻ができて Ph.D も出しています。国家の歴史を研究すればその延長としてワールド・ヒストリーを研究することができます。ワールド・ヒストリーの研究から日本の歴史を研究することもできます。中国の歴史研究は王朝の研究だけではできません。また漢民族の研究だけでは不十分です。漢民族とその他の民族とのかかわりが大切です。パキスタンという国家は 1920 年代までは存在しなかったのです。だから日本の歴史を教える時に世界とのつながりについて教えてかまわないのではないのでしょうか。

質問者 2

質問 1 international history とのちがいは何でしょうか。

回答 1 歴史は 1 人の学者が研究すると大変ですが、海外の研究者と共同したらどうなりますか。ユネスコの歴史研究の企画は失敗しましたね。それぞれ自分の国家の歴史を記述することに終ってしまいました。ワールド・ヒストリーの視点をもてば東アジアの歴史はうまく説明できるのではないかと思います。ワールド・ヒストリーは国家に固執しないからです。international history は国家の枠組みに縛られているのです。

質問 2 方法や材料はどうなっていますか。移民の問題を知るには口述史などの細かい調査がいるのではないのでしょうか。

回答 2 多様な言葉を 1 人で自由に使える人は限られています。私は中国系インド人で、家では中国語、学校ではヒンディー語、高等教育は英語の教育を受けました。ワールド・ヒストリーを研究するならば、少なくとも 2 ケ国語は知らなくてはならないと思います。でも 1 人で完璧にできる学者がどの位いるのでしょうか。だから私は単独よりも共同研究がいいと思います。

質問3 ワールド・ヒストリーは何を目指しているのですか。

回答3 理想的ではありますが、私は平和をめざしています。知的な興味で研究している人もたくさんいます。コロンブスによる交流や銀の移動の研究などはワールド・ヒストリーの研究テーマです。

質問者3

質問1 ワールド・ヒストリーはすべての大学生に必要でしょうか。

回答1 歴史を専攻する学生には必要ですね。すべての歴史を専攻する大学院生には必要でしょう。さもないとももの見方が大変近視眼的になると思います。しかし国内の大学で科学を専攻する学生は、ワールド・ヒストリーは選択科目です。だから科学専攻の学生は必ずしもワールド・ヒストリーは勉強していません。中学3年生レベルには必要ですね。このことについては、もちろんアメリカ合衆国でも反対はありました。その理由はワールド・ヒストリーを学ぶと学生が愛国的でなくなるというものでした。

質問者4

質問1 ワールド・ヒストリーを学ぶと、アメリカ人はどのように変化しますか。

回答1 アメリカ合衆国は新しい試みをしようとしているのです。この動きは止められないのです。ワールド・ヒストリーを学ばば、アメリカ人がもっとコスモポリタンになります。ワシントン大学では、国家と資本主義に関しては、1900年から現代までのワールド・ヒストリーは必修科目になっています。

